



アレルギーや感染症、0歳から対応

漢方薬で「やさしく」治療

子どものアレルギー症状や感染症を、漢方薬で治そうとする親が増えている。確かに一般的な西洋薬に比べ、体によさしいイメージがある漢方薬。「子どもには強い薬を使う前に、できれば副作用の少ない薬を」という親心だろうか。甲府市内のクリニックを訪ねてみた。

〈山本久美子〉

「実際には逆ですね。強い薬を飲んで治らないといつて来院する人がほとんど」。こう話すのは甲府・健友堂クリニックの菅原健院長。まずは小児科、耳鼻科、皮膚科などを一通り受診してから、漢方薬にたどり着くケースが多いようだ。

漢方薬は0歳児から使うことができ、同クリニックの患者も生後間もない乳児から高齢者まで幅広い。子どもの受診理由で

は、アトピーや水いぼなどの皮膚疾患、副鼻腔炎や中耳炎、花粉症などの鼻炎、風邪などの感染症が多いという。

独自調合の薬も

西洋薬と漢方薬の違いは何だろうか。「どちらも植物などの生薬からできているが、作り方が違う。西洋薬は有効成分だけを抽出して作るが、漢方薬はそのままの生薬を2種類以上ブレンドして作る」と菅原院長。同クリニックでは独自に調合した薬も処方。症状そのものだけに対応する西洋薬に対し、漢方薬は一人一人の体調や年齢に合わせた「オーダーメイドの薬」と言えそうだ。

より手軽な薬浴

生薬を風呂に入れる薬浴という方法もあり、入浴剤を求めて来院する人もいる。手などの湿疹で1カ月ほど前から長女(5)が受診する広瀬美香さん(45)は「甲府市城東2丁目」は「飲み薬よりも手軽で子どもには使いやすい」と話す。

菅原院長は「漢方薬にはさまざまな種類があり、体質や症状に合わせて最適な薬を決めている。体調を整えるのは漢方薬の得意分野。強い薬を使う前に一度、試してほしい」と話している。

診療にあたる菅原健院長。漢方薬で子どものアレルギー症状や感染症を治そうと来院する人が多い。甲府・健友堂クリニック